

## 保護司国際研修に参加して

東京保護観察所 保護司 島田耕一朗

平成 28 年 1 月 26, 27 日の一泊二日で標記研修に参加させて頂きました。

研修初日、まずは入所手続きを済まし、オリエンテーションの後、第 162 回国際高官セミナーの参加者との意見交換会となりました。

個別発表では、各保護司より事例紹介・活動紹介がなされ、皆それぞれ難しいケースを抱えながらも、日々、保護司活動に努力している様子をセミナー参加者に発信する事ができました。個別発表後の第 162 回国際高官セミナー参加者からの意見では、多くのお褒めの言葉を戴き、日本の保護司制度に対する関心の高さや尊敬の念を窺い知る事ができました。また、貧困が犯罪の大きな要因の一つであるのに、豊かな国、日本でも犯罪が起きてしまう原因はなぜか？という質問には考えさせられました。

意見交換会の後、夕食会、懇親会と続きました。私は英会話も全くできず心配でしたが、会話に困った時にはアジ研の教官が積極的に通訳を買って出たので会話も弾みまし、参加者全員がフレンドリーに接していただいたので非常に楽しい時間を過ごす事ができました。

二日目は海外客員専門家、ロバート・カントン教授の講義「機関間協働：法遵守を強化できるか」を受講しました。

くしくも更生保護施設業界では、高齢疾病者・薬物事犯者等の処遇困難者の自立更生がこれからのテーマであり、更生保護施設だけではなく、関連する諸機関、社会資源を積極的に活用し連携していこうという機運が高まっているので興味を持って拝聴しました。

これからの機関間協働とは、単純な連携ではなく、いわばジグソーパズルの各ピースがつなぎ合わさるように各機関同士で混ざり合い密接に融合する事であり、それによって一つの目標が効率的に達成できるであろう、という事に非常に感銘を受けました。

化学反応という言葉があります。別々の物質が混ざり合う事で化学反応が起き、全く新しい物質が生まれる事があります。私は、これからの多機関連携は

これと全く一緒であると思いました。それぞれの機関は独立し別組織ですが、各機関が密接に混ざり合う事で、これまでに無い全く新しい成果、新しい価値観が生まれてくるはずです。この機関間協働こそが、これからの更生保護の諸問題を解決してくれる大きな力となってくれるであろうと確信しました。

最後に、本研修に参加の機会を与えて下さったことに感謝すると同時に、朝早くから夜遅くまで、事務的な仕事から懇談会まで、献身的な姿勢で本研修運営にご尽力いただいたアジ研の教官、スタッフの皆様に最大限の敬意の念と感謝を申し上げます。ありがとうございました。